

# 庄内さくらんぼ通信

- ・着色管理を適度実施し、高品質な果実を成らせよう！
- ・生育のバラつき大！収穫は選りもぎも視野に入れよう！

## 1. 着色管理

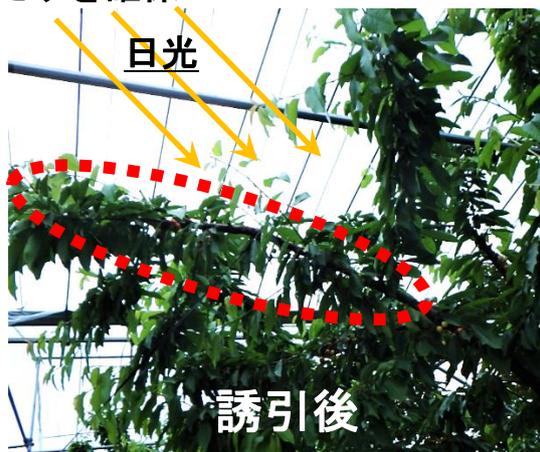
### (1) 枝吊り・枝誘引（新梢管理、葉摘みの前に実施）

○枝と枝、枝と地面の間隔をあけ、日当たりを確保



誘引前

上部の枝の重なりで内部が暗い



誘引後

⇒ 上部に空間ができ、内部が明るい

### (2) 新梢管理（樹勢が強い樹で実施）

- ◆樹冠内に光が入るように
- ◆薬剤の通りを良くするために

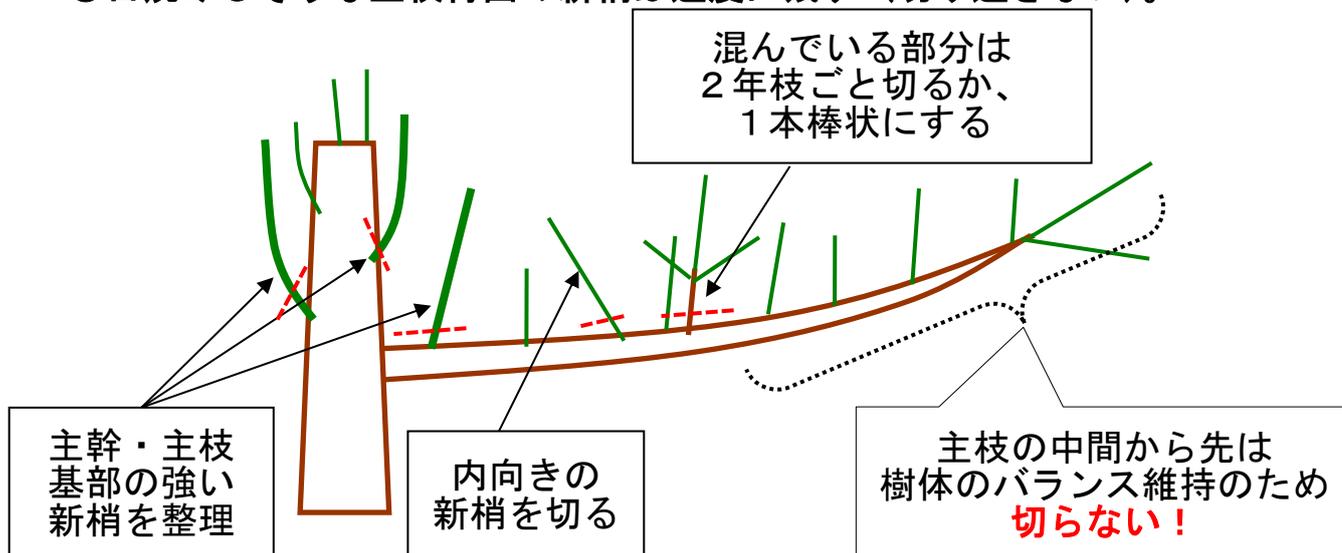
新梢管理で幹回りを明るく！

※主幹周りや主枝基部が混み合い、

日当たり不良、薬剤が付着しにくい場合に実施。

○弱った樹では実施しない！ 着果が少ない樹では主幹部の新梢を切る程度！

○日焼けしそうな主枝背面の新梢は適度に残す（切り過ぎない）。



主幹・主枝基部の強い新梢を整理

内向きの新梢を切る

混んでいる部分は2年枝ごと切るか、1本棒状にする

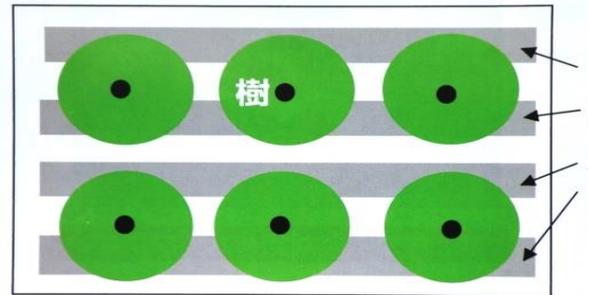
主枝の中間から先は樹体のバランス維持のため切らない！

### (3) 修正摘果（着果が集中している所は早急に実施!）

- 果実同士が接触した面は着色不良になりやすい。
- 摘果した果実は、病虫害の発生防止のため、園地に放置せず適切に処分する。
- 選りもぎしない場合、生育が遅い果実を狙って摘果する！

### (4) 反射シート設置

- 着色始期頃から設置！早急に!
- 樹の両側に、園地全体面積の50%以上を目安に設置!



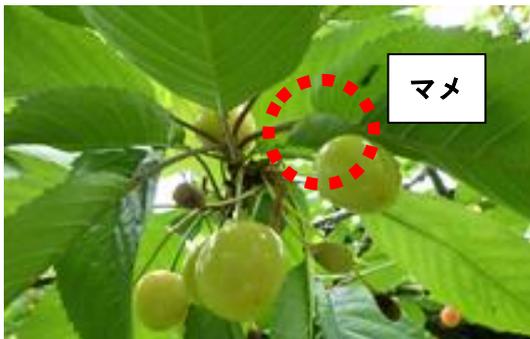
反射資材の設置方法（イメージ）

### (5) 葉摘みは最小限に!

- 果実を育て、着色させるのは葉の力  
⇒ 摘み過ぎは逆効果。
- 大きい葉を、花束状短果枝当たり4枚以上残す。  
※あくまでも着果が花束状短果枝当たり2～3果の場合の葉数です。

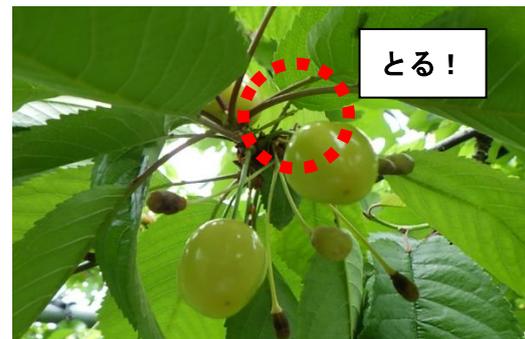
#### 手順

- ①小さい葉（マメ葉）をとる。
- ②果実に挟まっている葉、果実にかぶさり密着した葉を取る。



〈葉摘み前〉

⇒



〈マメ葉摘み後〉

## 2. かん水

※着果量の少ない園地・排水が良くない園地では、裂果に注意を!

- 着色期以降は土壤水分を低く維持、ただし晴天が続いたら  
**3～4日おきに1,000～2,000L/10a** かん水

※ 水利から遠い園地は、樹冠下だけでも **100L/樹**かん水

※「紅秀峰」「やまがた紅王」は土壤の乾燥程度に応じて、適度にかん水!

## 3. 防除

- 灰星病の重点防除時期となるため、定期的に薬剤散布を!
- オウトウショウジョウバエ等の対策として、防除間隔をあけず防除する。

**★さくらんぼ作業中の事故に注意! あせらず安全確保!**

- 脚立はチェーンを掛ける! 天板には立たない! 最下段に注意!
- 無理な姿勢で作業しない! ○暑さが続くので、**熱中症にも注意!**